

# 県民の森 花ごよみ 2月号

～裏面に開花・結実の調査結果を掲載～

リョウブ(冬芽)(H, L)



高さ8~10mになる落葉小高木。樹皮は茶褐色で滑らかであるが、老樹では薄片となつてはげる。葉身は倒皮針形で長さ8~13cm、幅3~9cm。7~9月、枝先に8~15cmの繚状花序を出し、小さな白花を密につける。  
〈リョウブ科〉

ロウバイ(A)



江戸時代初期に渡来し、観賞用によく植えられている。高さ2~5mになる落葉低木。1~2月、香りのつよい黄色の花を開く。内側の花被片は螺旋状につく。その外側は黄色でやや光沢がある。  
〈ロウバイ科〉

ソシンロウバイ(A)



落葉低木。1~3月頃葉が伸びるより前に香りの良い黄色の花を下向き又は横向きに開き、多数の花被片が螺旋状につく。内側の花被片も黄色である。真冬に咲く希少な花、芳香も人気がある。  
〈ロウバイ科〉

ホトケノザ(A)

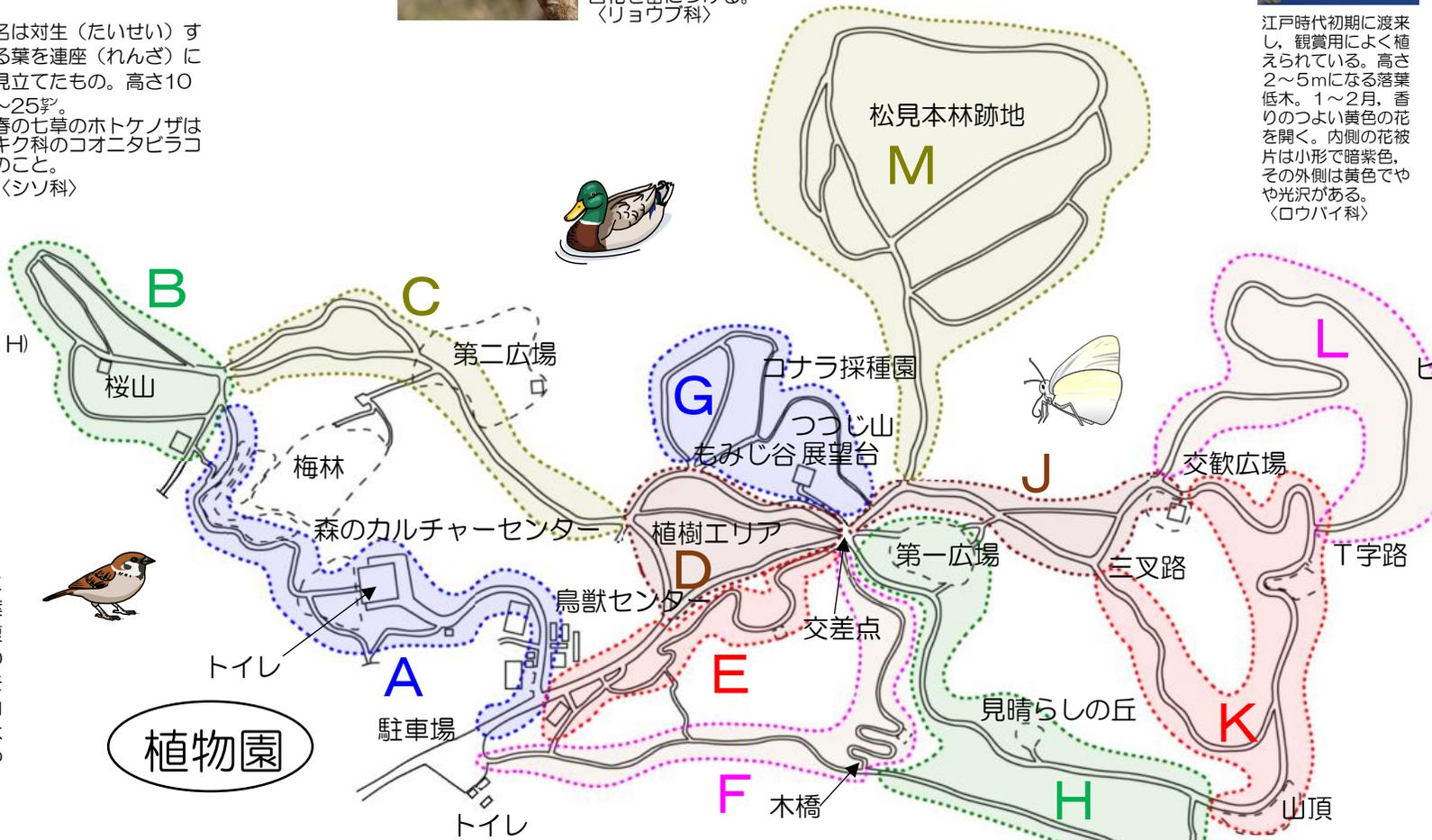


名は対生(たいせい)する葉を連座(れんざ)に見立てたもの。高さ10~25cm。春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのこと。  
〈シソ科〉

ゴズイ(冬芽)(E, H)



明るい山林内などに生える落葉小高木。葉は対生し、奇数羽状複葉。5~6月、若枝の先に幅広い円錐花序を出し、多数の淡黄緑白色の花を開く。袋果は裂開すると内面は鮮やかな紅色で美しい。  
〈ミツバウツギ科〉



ミズキ(冬芽)(全域)



山地に普通に生える落葉高木。枝を扇状に四方へ広げ階段状の独特の樹形になる。5~6月枝先の散房花序に小さな白い花を密につける。和名は枝を切ると水がしたたり落ちることからつけられた。  
〈ミズキ科〉

オオイヌノフグリ(全域)



ユーラシア、アフリカ原産。明治の中頃から見られるようになり、現在では全国的に広がっている。  
〈オオバコ科〉

ヒメオドリコソウ(A)



ヨーロッパ原産。高さ10~25cmになる。明治中期に渡来し東京周辺に多くみられたが、ここ数十年で分布を広げている。花をよく見ると、ホトケノザの花とよく似ている。  
〈シソ科〉

100m



# 2月の県民の森で観察された花，果実，冬芽など

調査：令和6年2月13日，県民の森等ボランティア

観察エリア	観察された花や果実，冬芽
県民の森全域に点在	オオイヌノフグリ，コウヤボウキ(実)，ミズキ(冬芽)，ヤマツツジ(冬芽)
A 駐車場～森のカルチャーセンター～桜山	アオキ(実)，ウメ，カンツバキ，ソシンロウバイ，タネツケバナ，ナズナ，ノボロギク，ヒメオドリコソウ，ビワ，ホトケノザ，ヤブコウジ(実)，ロウバイ
B 桜山	ガマズミ(冬芽)，ムラサキシキブ(冬芽)，ヤブツバキ(冬芽)，ヤマコウバシ(葉)
C 桜山～第二広場～植樹エリア	アオキ(実)，コブシ(冬芽)，タブノキ(冬芽)，ミヤマガマズミ(冬芽)，ヤブツバキ(冬芽)
D 植樹エリア	カンツバキ，ショウジョウバカマ(花芽)，ホオノキ(冬芽)，ヤツデ(実)
E 鳥獣センター～遊歩道～交差点	ウメ，ゴンズイ(冬芽)，ツルグミ(実)，トウコマツナギ(実)，ナズナ，ヌルデ(冬芽)，ネジキ(冬芽)，ハコベ，ビワ，ムラサキシキブ(冬芽)，レンゲツツジ(冬芽)
F 駐車場～木橋～交差点	ウメ，コブシ(冬芽)，トウコマツナギ(実)，フジ(実)，ホオノキ(実)，ヤマコウバシ(葉)
G つつじ山、もみじ谷周辺	コブシ(冬芽)，タネツケバナ，ナツツバキ(冬芽)，ノジスミレ，ホオノキ(冬芽)
H 第一広場～見晴らしの丘～木橋	ウメ，ガマズミ(冬芽)，クロモジ(冬芽)，ゴンズイ(冬芽)，ツルグミ(実)，ネジキ(冬芽)，ヤツデ(実)，ヤブラン(実)，リョウブ(冬芽)
J 交差点～交歓広場	ヤブコウジ(実)
K 交歓広場～山頂～三叉路	ムラサキシキブ(冬芽)，ヤツデ(実)，ヤマコウバシ(葉)
L 交歓広場～ヒノキ林～T字路	クロモジ(冬芽)，ヌルデ(冬芽)，ホオノキ(冬芽)，ムラサキシキブ(冬芽)，ヤツデ(実)，ヤマコウバシ(葉)，リョウブ(冬芽)
M コナラ採種園～松見本林跡地	ウルシ(冬芽)，キツタ(実)，ヌルデ(冬芽)，ホオノキ(冬芽)

※県民の森での山菜や山野草，果実の採取は禁止です。生物多様性と生態系の保全のため，植物の保護にご協力をお願いいたします。